

第5回京都市市民スポーツ振興計画策定委員会
会議録

日時：平成23年3月3日（木）午後1時30分～午後3時

会場：京都市役所寺町第1会議室

出席：＜委員＞ 山下委員長，松永委員長代理，石野委員，片山委員，雑賀委員
高屋委員，檀野委員，西村委員，長谷川委員，森井委員
（欠席）吉田委員

＜京都市＞

（文化市民局市民スポーツ振興室）

奥村担当部長，下間スポーツ企画課長

武内スポーツ企画課担当課長，池田スポーツ振興課長 ほか

（オブザーバー）

保健福祉局保健福祉部障害保健福祉課

教育委員会事務局体育健康教育室

1 開会（事務局）

2 挨拶（山下委員長）

お忙しい中，お運びいただきありがとうございます。昨年7月に第1回目の策定委員会を開催した。これまで4回意見交換を行ってきたが，本日の第5回が最終の委員会となる。委員の皆様方から，京都市市民スポーツ振興計画の策定に関する御意見をいただく最後のチャンスとなるので，よろしくお願ひしたいと思う。

本年初めに開催した第4回策定委員会では，計画素案第2次案について議論いただいた。その後，事務局の方で意見等をもとに若干の修正を加えた。その素案第3次案に対して市民意見の募集（パブリックコメント）を1箇月間行った。またその間，素案については市会議員からも意見をいただいたということである。

市民意見等の結果を踏まえ，事務局の方で検討され，さらに修正等を行ったものが本日お配りした答申案である。

本日は市民意見募集の結果についての報告及び計画の答申案について議論したいと考えている。

3 議事

◇山下委員長 それでは議事を始めたい。お手元の議事次第に沿って始める。議題は1

番目が「スポーツの絆が生きるまち推進プラン」(仮称)京都市市民スポーツ振興計画(素案)への市民意見募集の結果、2番目が「スポーツの絆が生きるまち推進プラン」京都市市民スポーツ振興計画(答申案)の検討の2つであるが、その他時間があれば若干お願いしたい件があるので含みおきいただきたい。まず、第1の議題から始めるが、事務局の方から資料についての説明をお願いしたい。

◇事務局(下間) <資料説明>

(1)「スポーツの絆が生きるまち推進プラン」(仮称)京都市市民スポーツ振興計画(素案)への市民意見募集の結果

◇山下委員長 ただいまの説明に対して質問又は意見はないか。

◇雑賀委員 テニスコートを増やしてほしいという意見があるが、それは屋内あるいは屋外のどちらか。

◇事務局(下間) 特にそういう指定はない。

◇雑賀委員 屋外のテニスコートの管理面についてはどう考えるのか。

◇事務局(下間) テニスコートの設置者はいろいろある。京都市が有料で貸しているテニスコートもあれば、京都市内に京都府や民間が設置しているテニスコートもある。京都市の場合は、指定管理者制度を導入しているので、主に体育協会と民間会社がジョイントし、管理人をおいて管理している状況である。

◇雑賀委員 山科区の山科中央公園にテニスコートがあるが、山科区役所の方から管理してもらえないという話があった。団地の中にあるので、冬休みや夏休みに児童がテニスコート内に時間外に入って遊んだりしているが、住民からうるさいなどの苦情が出る。そういったことから、屋外のテニスコートの場合、管理委託を受けた業者がきちんと管理できるのかという問題がある。山科の場合、鍵を閉めるのは午後5時半だが真冬は真っ暗である。また朝は8時半には雨や雪の場合も鍵を開けなければならない。屋外の場合はそうした問題があるので、管理体制をきちんとする必要がある。屋外にテニスコートをつくれればつくるほどそういう問題が出てくる。

◇事務局(下間) 補足説明をすると山科中央公園のテニスコートは無料施設である。指定管理者に委託した施設ではなく、ハード整備は市民スポーツ振興室で担当し、管理運営は区役所が行っている。確かにつくっても維持管理するのに費用がかかる。あるいは有料にする方が費用がかかる場合もある。おっしゃる通り、その施設の目的に適した管理方法を十分に考慮する必要があると思う。

◇山下委員長 京都市に対するスポーツ振興のアウトラインを示すということなので、

できればその方向に沿った意見をいただきたい。事務局から説明のあった意見募集に関して分からない点など御質問をいただければと思う。もしなければ本日の本題に入りたいが、よろしいか。

<委員一同 了承>

(2)「スポーツの絆が生きるまち推進プラン」京都市市民スポーツ振興計画（答申案）
の検討

◇山下委員長 それでは、本日の主たるテーマ「答申案」の検討について意見交換をしたい。事務局の方で何かあるか。

◇事務局（下間） 答申案は、今回の市民意見を受けた事務局の修正案も含めたものなので、これをたたき台に議論いただきたい。本計画の大枠に影響があるような市民意見はなかったと思っている。

◇山下委員長 パブリックコメントをじっくり読ませていただいたが、総括すると市民の皆さんは京都市の財政事情に配慮して概ね建設的な意見だった。また、「する・みる・支える」という多方面に渡る施策に対して総じて好意的だった。積極的に賛同していただいたのではないかと思う。具体的な施策面に関してまとめると、ハード面では施設の新設というよりは、トイレ・シャワー・ベンチなど付帯施設に対する要望が多かったように感じている。ソフト面では手軽なスポーツの機会、わかりやすい情報提供、料金体系の問題など総じてアクセシビリティ、近づきやすさを向上させてほしいという意見が多かったと思う。ヒューマン面に関してはボランティア参加をもっと見えやすくしてほしい、あるいは体育振興会等のこれまでの草の根的な活動をもっとオープン化できないかといったような意見もあった。一言で言えばもう少し身近なところから実現可能性を踏まえて施策のポイントを探り出せないかといった意見があったように思う。

本日は、答申案にこれらの意見をどう盛り込むかということで、説明のあった事務局案があるが、実は明日の午前に答申という時間の制約がある中で、皆様方に市民意見を具体的に明文化する作業をしていただきたいと考えている。答申案に基づいて、アンダーライン等で示している事務局案をどうするかというところからまとめていきたいので御協力いただきたい。

答申案の4ページ目の「みるスポーツ」の<現状>に、プロスポーツチームの具体的な名称を入れるという案だが、意見や異論等はないか。よろしければこのような形で盛り込ませていただく。続いて、10ページの主要な施策の「郊外型運動公園の整備」のところ、「アクセス改善も含め」という文言を付け加えるという案である。よろしければ、11ページの前回議論いただいたところだが、パブリックコメントを踏まえて、「アダプテ

ッドスポーツ」を「障害のある市民などが参加しやすいスポーツ」に置き換えるという案だがどうか。前回の議論についてだが、私の記憶では障害のある方々と特定化するというよりも、高齢者や小さな子どもたちも含め、適応した新しいスポーツを工夫していくという考え方がよろしいのではないかとということで「アダプテッドスポーツ」という言葉を使おうということになった。高齢者や障害のある方々、子どもたちもすべて含めて、アダプテッドスポーツに代わる言葉があればいいが、それに代わるものが浮かばないが、皆様の方で何かないか。

◇高屋委員 確かに横文字が多いと分かりにくい場合もあるが、市民に対して「アダプテッドスポーツ」という言葉を普及した方が良ければ、日本語にするというよりも注釈を入れて、イメージできる方がいいと思う。スポーツリエゾンには難しいような気もするが、「アダプテッドスポーツ」は普及した方がいいのではないか。

◇松永委員長代理 パブリックコメント118件の意見をいただいている中で、この件に関しては2件。2件の市民意見でこれまで委員会で議論したことが変わってしまうのはどうか。私も元々の表現の方がいいと思う。その時にも議論があったと思うが、10年後に向けたプランなので、「アダプテッドスポーツ」はスポーツの領域では徐々に根付きはじめつつある。本プランは見直しもあるので5年たった段階で本当に根付いていなければ考えるということで、代わる言葉がないので「アダプテッドスポーツ」に注をつけた方がいいと思う。逆に障害のある方だけというような偏見がない方がいいので、できれば修正しない方がいいと思う。

◇山下委員長 「アダプテッド」のままがいいという意見が出ているが。

◇高屋委員 アダプトという言葉は日常的に使う。

◇事務局（下間） 「アダプテッドスポーツ（障害のある市民などが参加しやすいスポーツ）」あるいは「障害のある市民などが参加しやすいスポーツ（アダプテッドスポーツ）」とどちらも使えるような、つまり注釈とは別に日本語の表現も付けるという方法はいかがか。

◇高屋委員 あまりくどくならない方がいいのではないか。かえって英語の表記の方が分かりやすいということもある。

◇片山委員 京都の障害者スポーツ振興会の会長代行などと話をすると、そういう言葉は使われているのでいいのではないかとということだった。私たちはディスアビリティという言葉を使っていたが、ちょっと厳しいことからアダプテッドでいいのではないかと話した。今はあまり使わないが、10年後には使うようになるのではないか。

◇松永委員長代理 「アダプテッドスポーツ」はかなり以前から使われている言葉だが、市民レベルに浸透するスピードは遅いような気がする。

◇山下委員長 専門領域の方々には浸透しつつある言葉。これに代わる言葉がなかなかないということで、委員会としては「アダプテッドスポーツ」という前回案に戻させていただくということによろしいか。

◇長谷川委員 障害の「害」の表記だが、ひらがなではなく漢字にするのか。

◇オブザーバー（障害保健福祉課） どういう表記にするかということは、現時点で決まっていない。国の障害者基本法の制度改正で議論の一つとして検討されているが、その中でもいろいろな意見があり、障害の表記については当面、現状のままとされている。京都市の方でもいろいろな意見を聞くため、私どもの課で庁内に向けて議論を起すような庁内情報誌発行の取組を進めてはいるが、まだ京都市の中でも統一されたものはない。

◇長谷川委員 私たちは「障がい」という使い方をしている。

◇山下委員長 害をひらがなにすることによって、逆に特別視されるということはないのか。そういう考えも出てきていて、現状では統一された表記がない。この表記に関しては、全国的な傾向等を踏まえて適切な言葉にさせていただくので事務局にまかせるということではどうか。

次に14ページの「アクセス改善を含め」は10ページの追加と同じである。16ページだが、重点戦略のひとつとして「スポーツリエゾン京都」という名称を使ってきたが、パブリックコメントに表記が難しいのではないかという意見が一部あったのでこのような表現に改めた。

◇高屋委員 くどくなるような表現はどうか。「京都市スポーツの絆が生きるまち推進会議」というのは正式名称かもしれないが、「リエゾン」は難しいような気はしたが、イメージは必要だと思う。

◇山下委員長 私は「リエゾン」という言葉に意味を持たせようとした。どこかの組織に所属するというよりも、それを越えてという意味が「リエゾン」というフランス語に込められている。この「リエゾン」が一番の目玉だという意味で使った。他の言葉にすると、この策定委員会のように各団体の代表者が集まってというような従来の会議になってしまう可能性が高いので、そういうものではないということを強調したかった。

◇高屋委員 委員長の思いがあれば、「リエゾン」でいいと思う。この言葉を広めていくようにしていきたい。

◇山下委員長 言葉や概念の面でも京都は最先端を走るというのもいいのではないか。忌憚のない意見をいただきたい。

◇松永委員長代理 これから10年の振興計画なので、キャッチコピー的な意味合いも必要。また、戦略なのでサブタイトルに「京都市スポーツの絆が生きるまち推進会議」が入れば「スポーツリエゾン」という意味がかなり分かりやすくなると思う。日本語にするとこのような感じということでは、サブタイトルとしてあった方が分かりやすいと思う。ただし、京都が今後10年

でこういう方向で行きたいということキャッチコピー、あるいは象徴的に新しいチャレンジの方向性を出すという意味では「スポーツリエゾン」という表現の方がいいと思う。根付かなければ5年後に修正すればいいのではないか。他都市の振興計画はほとんど同じような内容。他にないことから違和感があるが、それが京都らしさというところで理解を広めていくということで、「スポーツリエゾン京都(京都市スポーツの絆が生きるまち推進会議)」とした方がいいと思う。

◇山下委員長 個人的には「スポーツリエゾン」という言葉よりも、2の「スポーツウェブ」という言葉の方が分かりにくい。“リエゾン”は複数の組織を橋渡しするという明確な意味があるが、“ウェブ”は網の目があるような感じがするだけでしっくりこない。しかしながら現代の人たちはウェブを日常的な言葉として使っているので抵抗感がない。抵抗感がないが故に怪しいといえれば怪しいような気がする。

ただ今、松永委員の方から意見があったように、私としても答申案としてはまとまりのいい概念を並べ、組織の名称としては「京都市スポーツの絆が生きるまち推進会議」でもいいが、考え方を打ち出す、つまりテーマとしては先ほどの「アダプテッドスポーツ」と同様に「スポーツウェブ」「スポーツリエゾン」でまとめる方が好ましいと思う。

◇雑賀委員 何もかも横文字というのでは良くないが、スポーツリエゾンはいいのではないか。

◇山下委員長 非常に唐突だが、1の「スポーツ施設の充実、整備」も例えば「スポーツインフラ京都」にしてはどうか。この会議の冒頭からスポーツの資産の共有、つまりみんなのものという形にしていこうということなので、おそらくパブリックコメントにもあったように、新しい施設をどんどんつくってほしいという意見よりも、市民には今ある施設や機会をどんどん活用していこうという姿勢が見られるので、施設というより、京都市のスポーツの基盤整備のような意味で「スポーツインフラ」という言葉にすると、重点戦略の1～3がカタカナであるが、考え方としては重要なことが柱としてまとまるのではないかと思う。今あるスポーツの仲間や機会、場所をみんなで大事にしていこうという意味で「スポーツインフラ」と表現する。電気・ガス・水道等の考え方と同じようにスポーツの分野で共有できる資産というものを「スポーツインフラ」という言葉で表すことができるのではないか。そうすると従来の「ハードウェア、ソフトウェア、ヒューマンウェア」はそれぞれ「インフラ、ウェブ、リエゾン」という21世紀の新しい言葉に置き換えられていくのではないか。また、単なる言葉だけではなく、これらの表現から新しい考え方が示唆されるのではないかという感じがする。

- ◇高屋委員 インフラはわかりやすい。施設の充実，整備は絵に描いた餅のような気がする。先ほどのアクセス改善も絵に描いた餅のようで，10年後に向けては，今おっしゃったようなことが必要だと思う。
- ◇松永委員長代理 キャッチコピーのように印象に残ることが大事。1だけトーンが違うので，委員長の提案に賛成。
- ◇山下委員長 大きな視野で我々は「スポーツインフラ京都」「スポーツウェブ京都」「スポーツリエゾン京都」の柱に，この先10年間を見据えた計画にすることでどうか。それに沿った中身の充実は大変だと思うが，こういう情勢なので少しでも夢のあるプランにしたいと思う。もし異論がなければそういう案で修正させていただくがよろしいか。

<委員一同 了承>

(3) その他(「スポーツリエゾン京都(スポーツの絆が生きるまち京都推進会議)」のイメージについて)

- ◇山下委員長 会議の冒頭申し上げたが，このプランを動かすために「スポーツリエゾン京都」をどのように立ち上げていくかについて，我々は責任を持たなければならないので残りの時間は，「スポーツリエゾン京都」のイメージづくりというか，どうすればいいのかということに意見をいただき，この先につなげていきたいと思う。よろしければそういう風に議事を進めたいが，よろしいか。事務局の方と相談し，資料を用意したのでお配りしたい。資料の説明を事務局の下間さんをお願いしたい。
- ◇事務局(下間) <資料「スポーツの絆が生きるまち京都推進会議」(スポーツリエゾン京都)のイメージについて(案)説明>
- ◇山下委員長 それでは意見をいただきたい。
- ◇雑賀委員 6の23年度の取組目標に京都マラソンがあるが，来年の3月開催予定の京都マラソンに向け，1年間かけてこのメンバーで何を助言し，何を実行していくのか具体的な考えはあるのか。京都マラソンの開催において我々は何をするべきかという提案をするということか。
- ◇事務局(下間) 京都マラソンを実施するにあたって多くの団体や個人にボランティアとして参画していただく必要性が生じる。その際に例えば，単にいろいろな団体に割り振りをするというよりは，各団体・個人が京都マラソンにどう関われるのか，どういう役割を果たすことによってマラソンを盛り上げることににつながるのか，というような提案を集約するために交流する場としてリエゾンを活用していただければどうか。あまりまとまっていなくてもいいがそういったイメージである。
- ◇山下委員長 京都マラソンそのものを動かすというのではない。

- ◇事務局（下間） もちろんそうである。それをきっかけにするということ。
- ◇高屋委員 私は体育振興会に関係しているが、スポーツリエゾンということでは、地域のスポーツでプロスポーツの方々の指導を受けたい。話をしたり、実技指導も受けたりできるようにしたい。プロの方々にいろいろお願いするとギャランティが発生するので、プロの方々にもボランティアとして、地域スポーツに競技スポーツのノウハウを取り入れられるような指導をいただき、また交流を広げていただきたい。総合型地域スポーツクラブを目指している者としては大いにそういう取組をしていただければありがたい。年間2回程度の会議では無理なので、そこから波及して別途プロの団体等とは話し合いの場を持つ必要はあるが、是非ともお願いしたい。
- ◇山下委員長 一番のポイントは3のメンバーだと思う。組織構成を当面どうするのかということが決まらないと動かない。この辺に関して意見をいただきたい。事務局の方から伺ったところ、我々振興計画策定委員は2年間の任期だということである。
- ◇事務局（下間） 設置要綱上2年が委嘱期間だが、もちろん計画の策定をお願いしているので、計画策定が明日の答申を持って終わればそれまでだが、要綱を変えることによってお願いできないかと考えている。新たに委員をお願いすることになると、組織の立ち上げまでに時間などがかかるので、この計画の進捗についても計画を策定した方々をお願いするのがいい方法ではないかということをお願いしたいと考えている。
- ◇壇野委員 メンバーについては、私は水泳協会所属だが、京都市体育協会の代表として参画している。京都市体育協会には競技団体36団体が所属しているが、ボランティアをお願いすれば、各競技団体から数名は出していただくとと思う。今ここにいるメンバー以外に、競技団体から1名でも2名でもお願いして、より多くの方々がボランティアとしていろいろなことに携えることはできると思う。水泳協会では、車いす駅伝や夏に高野で開催される障害者の水泳競技にボランティア参加している。他の競技団体にもお願いすれば人数に関して可能だと思う。
- ◇事務局（下間） この会議のメンバーが中心となって直接ボランティア活動するというよりは、各団体のキーとなる方々が集まる会議の中で情報交換をする。例えば京都マラソンへの各団体の取組の考え方などを参考に議論をする場がリエゾンであり、ボランティアの実働部隊は別というイメージである。
- ◇松永委員長代理 設置目的の①に関してだが、本振興計画の策定委員の多くは、各スポーツ関連組織の代表として参画されている。今後、組織の他の方にバトタッチすることがあるにしても基本的には組織の方が関わり、施策・事業進捗についての評価・助言していかなければならない。その意味では策定委員が残るという考え方がひとつある。一方、策定に関わったメンバー

のみでは評価が甘くなってしまうので、別の方に参加していただく必要がある。つまり、評価・助言というところだけみると、全く同じメンバーだけではいかなものかと思う。ということから、このまま委員が残るというよりは、このメンバーをベースにしながらスタートするという表現がいいと思う。

設置目的の②に関しては、もっと広げて考えるべき内容なのでこのメンバーだけでスタートということになると狭くなってしまうので、オブザーバーとしてではなくメンバーをもっと増やすのか、あるいはこのメンバーを軸にしばらく考えていくのか、このメンバーだけではどうかという気がする。

◇山下委員長 大事なのは設置目的②に関するメンバーだと思うが、いわゆる無報酬、いわゆるボランティアで簡単に集まるのかという問題がある。プロスポーツのメンバーがボランティアで参画していただければありがたいが、メリットがないと参加してくれないような気がする。むしろフォーマルなメンバーとして参画いただく方が良いのではないか。確かに組織の立ち上がりは我々が動く必要があると思うが、具体的にはどうするのか。

◇松永委員長代理 プロスポーツ3チームは最初からメンバーに参画いただく方が良いと思う。お願いする立場ではなく一緒にするという関係でないとうまくいかない。プロスポーツ3チームはヒアリングの対象だったが、策定委員会のメンバーではなかった。プロスポーツの方もいろいろ事業をやりたいという思いはあると思うので、みるスポーツという点からも、プロスポーツがメンバーに入っていただく方がスムーズなような気がする。

◇山下委員長 このまま同じメンバーが集まるよりも、例えばメンバーの半分か3分の1くらいを残し、新しいメンバーを加えて組織を立ち上げる方がベターなような気がする。

◇西村委員 設置目的の①と②は似て非なるものだと思う。設置目的の②は元々委員長がおっしゃっておられたリエゾンの目的だと思う。しかし②だけを目的に出発しても課題ばかりが見えて何もできないということになってしまうのではないか。そうすると既存のものを活用してスタートし、どこかで独り立ちしていくという方向が良いのではないか。市民スポーツ振興計画を策定したが、これは市民スポーツ振興のアウトラインを示したものであり、今後は具体化していくという作業が必要なので、①をもとに振興計画策定のメンバーが新たな展開を図っていくためのスタートを切るという仕掛けがよいのではないか。先ほどマラソンのボランティアの例も出たが、いろいろな団体にボランティアを割り当てるというよりも、ボランティアがどのように集まるのかという議論をしていただき、そのことを契機にいろいろな団体との関係やつながりができてくると思う。また、振興計画を具体

化していく中でいろいろな議論があると思う。例えばプロスポーツと体育振興会の濃厚な関係ができれば新たな事業の展開を図ることもできる。設置目的の①をもとに、②に展開しさらには組織が自立して活動していくようなイメージ。そのためにも策定委員会のメンバーがある程度中心となっていたらいいと思う。

◇山下委員長 展開としては、設置目的の①が終了し、②が自立していくような姿。

◇長谷川委員 私どもレクリエーション協会と体育振興会が結びついて活動することが今はない。計画にはリエゾンの協働型の事業の活動例があるが、今後立ち上げるリエゾン組織は、例えば団体同士が親交を深めていくなど、次にステップしていくためのものだと思う。

◇山下委員長 確かに身近なところから動いていくということもある。

◇松永委員長代理 テーブルを囲んでいろいろな団体の方が話し合いをする機会も必要なので、組織のイメージ案のように、各組織の方に参画いただく。さらにそれにプラスして各団体からもいろいろな要望があるのでプロスポーツチームの方にも参画いただくようにする。全体の会議で個別の議論をひとつひとつやることはできないので、各団体の個別の議論は別途やっていただくことになるが、リエゾンはそのきっかけの場というイメージ。そういう意味では各団体をはじめ京都全体で盛り上げていくイベントとしては京都マラソンがわかりやすいと思う。もちろん地域レベルで週1回以上のスポーツ実施率を65%以上にしていくためにどうしていけばいいのかということもリエゾンの大きな目標のひとつ。委員長からメンバー半分という提案もあったが、どこの団体に抜けてもらうかといった問題もあるので、それは難しいと思う。予算の問題もあるが、むしろこのメンバーに加えて、例えばプロスポーツチームなどに入ってもらえるようになるような気がする。

◇山下委員長 本日の議論を踏み台に、事務局とも相談して皆様にお声をかけることがあるかもしれないのでその節はよろしくお願いしたい。

そのほか、最後の委員会なのでこれまでのことを踏まえ、何かお気づきの点があれば発言いただきたい。

◇高屋委員 「するスポーツ」「みるスポーツ」「支えるスポーツ」の「する・みる・支える」は三拍子揃っていいと思うが、1つずつみると「みる」「支える」はいいが、「するスポーツ」が気になる。言葉として正しいのか。

◇山下委員長 カタカナにすると「ドゥ・スポーツ」

◇高屋委員 その方がいいような気がするが、それだけ言い換えるとバランスが悪くなってしまう。「する・みる・支える」のように3つ並べるといいが、「するスポーツ」だけでは違和感があるので発言させていただいた。

◇山下委員長 その他ないか。それでは今後については事務局の方から説明があると思うが、本日の議論を踏まえて、策定委員会後に市民スポーツ振興計画答申

を作成する。非常にタイトであるが、明日の午前に私と松永委員長代理の2人が市長に答申する予定となっている。以上のことから答申案の文言の最終的な調整については、先ほどの議論を踏まえ、できるだけ皆様の意見を反映した形で完成させたいと思うので、私と事務局に一任させていただければありがたい。

<委員一同了承>

◇山下委員長 ありがとうございます。それでは、本日が最後の委員会ということで委員長として最後に一言御挨拶申し上げる。第1回の委員会から本日の委員会に至るまでスムーズというか非常に楽しく会を持つことができ、非常に感謝している。私自身は、夏の暑い時に、いろいろな団体に足を運ばせていただいたが、良い思い出となった。全5回の委員会を通じてほぼ100%に近い形で策定委員全員に御議論いただいたが、そのことは当策定委員会の誇りにしていいことだと思う。皆さんの御協力に大変感謝している。ありがとうございました。

◇事務局（下間） <今後のスケジュール等について>

4 閉会